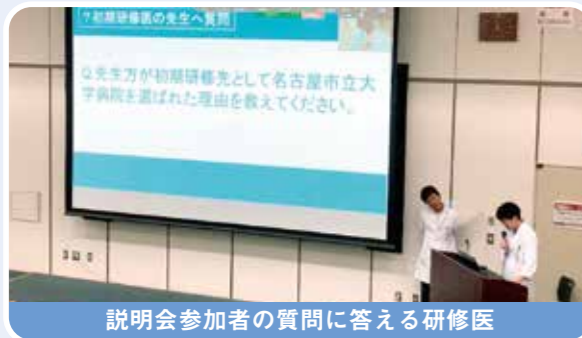


総合研修センター 2年連続フルマッチ達成

医師は医師国家試験に合格後、2年間の初期臨床研修を行わなければなりません。臨床研修は、医師としてのキャリアをスタートさせる上での重要なステップであり、医療の質を保ち、患者の安全を確保するために不可欠です。全国的に大学病院での初期臨床研修希望者が減少する中、名古屋市立大学病院が提供する卒後臨床研修プログラムでは、昨年に引き続き、フルマッチを達成する(当院の全定員数37名を100%満たす)ことができました。これは東海地方の大学病院では唯一の結果です。

当院の研修プログラムは、医師としての基礎をしっかりと学べるように設計されており、多くの初期研修医から高く評価されています。当院では、2年間の大学病院での初期研修に加え、1年目は連携病院で一般的な疾患の治療経験を積み、2年目には当院で難治性や希少疾患の研修を行う制度があります。これにより、可能な限り個々の希望に沿った臨床研修プログラムの設計ができるよう配慮しています。また、先輩医師が1対1で研修をサポートするメンター制度を採用し、精神的なサポートを含め、研修医が安心して学び、成長できる環境を整えています。名古屋市立大学病院は、これからも医師としての高い専門性と人間性を兼ね備えた医療人材の育成に努め、地域に貢献していきます。

文責 総合研修センター



説明会参加者の質問に答える研修医



5月ポートメッセなごやでの出展説明会の様子

小児科病棟でクリスマスイベントを開催！

令和5年 12月21日(木) 三菱UFJ銀行 今池支店様

小児科病棟で行われるクリスマスイベントに三菱UFJ銀行 今池支店様が参加されました。当日は、サンタさんから子どもたちへプレゼントの配布やクリスマスのオーナメント作成にご協力を頂きました。また、さくら基金へのご寄附も併せて頂き、小児科病棟でのイベント(節分・ハロウィンイベント等)に活用させていただく予定です。



クリスマスイベントの様子

令和5年 12月24日(日) スマイルリターン様

クリスマスにサンタクロースがスーパーカーに乗ってやってきました。当日は、スマイルリターン様のご協力です。サンタさんから子どもたちへお菓子・ミニカー等のプレゼントや、サンタさんが乗ってきたスーパーカー・トライク(3輪バイク)の乗車体験も実施いただきました。



クリスマスイベントの様子

サンタさんが乗ってきたスーパーカー

さくらほっと NEWS vol.62 令和6年春号



名市大の地域医療連携センターをご紹介します

名市大病院のチカラ Vol.303

総合研修センター
2年連続フルマッチ達成4
小児科病棟で
クリスマスイベントを開催！4

地域の医療機関と名古屋市立大学病院との連携



名市大の地域医療連携センターをご紹介します

地域医療連携センターは、医師や看護師、薬剤師、社会福祉士など様々な職員が、かかりつけ医や地域の病院、施設などと市大病院をつなぐ仕事をしています。その特徴は、なんとと言っても「105 患者サポートセンター」です。患者さんに関わることをワンストップ(1ヶ所で用事を済ませること)で行うことを目的に設置され、「ここに相談してよかった」と言われるような窓口を目指しています。入院案内や退院支援以外にも、各種相談をお受けしています。「がん相談支援センター」では研修を受講した医療専門職の相談員が、がん相談を受け付けています。また、複雑な年金制度や労働社会保険の諸手続きについて、社会保険労務士による相談会を開催しています。がん診療拠点病院として、当院に受診中の方だけではなく、受診していない方や、ご家族のことについて相談したい方など、どなたでも相談が可能です。

入院支援部門では、入院時に必要なものや、内服している薬の確認、栄養管理などについて事前説明を行います。さらに、入院中のお部屋の希望として、個室の特別病棟(特A室、特B室、特C室)か、一般病棟のどちらを希望されるのかお聞きします。また、看護師が患者さんの日ごりの状態を面談で確認し、治療後早期に自宅等への復帰を目指すよう計画をしていきます。退院支援部門では大学病院での治療は終わったものの引き続きリハビリや療養を必要とする患者さんに、自宅生活でのサポートや連携病院への転院サポートなど、看護師や社会福祉士などの医療専門職種が相談をお受けしています。また、必要な介護保険の申請や福祉相談を行い、訪問診療や訪問看護師、ケアマネージャーにもつないでいきます。

その他、公費負担制度や福祉制度に関する相談、肝疾患相談、脳卒中相談、愛知県産業保健総合支援センターによる治療と仕事の両立支援相談会の受付窓口でもあります。

当院では手術や検査が終わり、治療がいったん落ち着き安定した場合にご紹介いただいたクリニックや近隣の医療機関(かかりつけ医)にご紹介をします。地域医療連携にご協力のほど、よろしく願いいたします。また、かかりつけ医から当院の診察予約を行っています。その他、医療機関向けの勉強会や、地域の住民向けの健康教室などを企画運営していますので、お気軽にお立ち寄りください。

105 外来診療棟 1階 患者サポートセンター／がん相談支援センター

- 仮設玄関 から入って約3m、左側
- 下りエスカレーター から外来受付前を通って1本目を右折すく
- 総合案内 から仮設玄関に向かって約5m、右側
- 地下鉄側出入口 から仮設玄関に向かって約15m、右側



名古屋市立大学病院 052-851-5511 (代表) 受付日時 月～金曜日(祝日・年末年始除く) 受付時間 9:00～16:00

名市大病院のチカラ Vol.30

国際医療連携部

外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)認証が更新されました。

この度、2024年1月24日付けで当院はJMIP認証を更新いたしました。

JMIPとは、医療機関の外国人患者受入れ体制を中立・公平な立場で評価することを通して、国際的に高い評価を得ている日本のサービスを外国人が安心・安全に享受できる体制の構築を目的とする、一般財団法人日本医療教育財団が運営を行っている外国人患者受入れ医療機関認証制度です。2023年12月末時点では全国で68の医療機関が認証を受けています。

当院では、2021年1月25日に初回認証を受けており、2023年10月に更新のための審査を受けました。

審査は2日間に渡り書面調査と訪問調査が行われ、訪問調査では評価調査者5名が病院を訪れ、実際に病棟や外来診療棟を訪問し、外国人患者さんへ向けた院内設備や診療体制について聞き取りや審査が行われました。併せて各部署の担当者との合同面接も行われ、今後の運用体制

の改善へ向けた貴重なご意見を多くいただくことができました。

外国人患者さんの受診数は年々増加傾向にあり、今後も2025年の救急災害医療センターの開棟、そして2026年の愛知・名古屋での第20回アジア競技大会の開催に合わせて更に増加していくことが見込まれます。

外国人患者さんも安心して受診できる病院を目指し、スタッフ一同取り組んでまいりますので、今後とも皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。



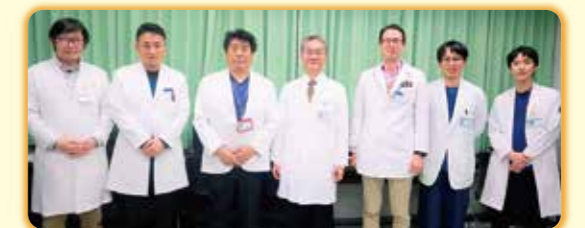
JMIPの認証書

内視鏡下頭蓋底手術センター

内視鏡下頭蓋底手術センターを開設しました。

このたび名市大病院では、頭蓋底腫瘍に対するより低侵襲な手術を提供できるように内視鏡下頭蓋底手術センターを設立しました。頭蓋底腫瘍に対する摘出術には、広い範囲の皮膚切開と大きな開頭および骨削除が必要で、現在もそのような術式を採用している施設が大多数です。しかしながら、近年になって、このような術式に内視鏡を導入した、より低侵襲な術式の報告が相次ぎ、その適応が拡大しつつあります。そして、当院でも、全国的にも早い時期から頭蓋底腫瘍やその他の脳腫瘍に対して、内視鏡を用いた術式を導入して来ており、そのような経験と特徴を生かして、これまでも合同で手術を行ってきた脳神経外科と耳鼻咽喉科に、放射線科にも加わって頂き、各々の領域の知識を結集させて、より先進的で、かつ低侵襲で安全な手術の実現を目指して行きます。さらに本センターでは、実際の臨床のみならず、このような高度な手術

手技の習得(教育)や熟練、異科間の連携の習熟のために、名古屋市立大学先端医療技術イノベーションセンターでのcadaver dissectionによる訓練や新規の術式の開発を継続して行っていくとともに、定期的に手術トレーニングコースや研究会を開催していく予定です。



内視鏡下頭蓋底手術センター(左から順に)

- 脳神経外科 山田 紘史助教
- 副センター長: 脳神経外科 谷川 元紀准教授(外来日: 火曜日)
- センター長: 脳神経外科 間瀬 光人教授
- 副センター長: 放射線科 樋渡 昭雄教授
- 副センター長: 耳鼻いんこう科 讀岐 徹治(東部医療センター部長)
- 耳鼻いんこう科 角谷 尚悟病院助教
- 脳神経外科 藤波 亮太病院助教